



☆ 優秀作品表彰：道の駅「淡河（おうご）」  
の整備  
神戸市建設局

道の駅は、一般道路における休憩場所として、平成5年度から市町村等と道路管理者が協力して整備が進められており、平成15年8月では、全国で743駅が登録されている。

道の駅「淡河」は、安全で快適な道路交通環境の形成および地域の活性化、地域農業の振興に寄与する施設として神戸市内で初めて、政令指定都市でも初めての道の駅として平成15年4月22日にオープンした。

道の駅「淡河」は、神戸の北の玄関口に位置し、周辺は、農村地帯である。

道の駅「淡河」がオープンして数ヶ月が経過したが、休日には駐車場が満杯の状況である。直売所では地元産の農産物がよく売れており、オープン時間にあわせて買いに来る人もいる。また、レストランでは地元産のそばを使ったメニューに人気があり、ピーク時には行列ができるほどである。

道の駅のオープンによって、淡河町住民がこれまで取り組んできた地域活性化へ向けての活動内容が、一体化され、道路を利用する一般の人へと広まることとなった。今後も道の駅を中心として、地域の活性化がますます図られ、地域住民と道路利用者との交流が深まっていくこととされる。

☆ 優秀作品表彰：新交通管制システム  
の構築  
～次世代対応型交通管制システム～  
阪神高速道路公団

阪神高速道路公団では、平成15年5月に交通管制システムを更新した。

新システムでは最新の計算機システムやネットワーク技術を駆使することにより、様々な機能の高度化を行っている。

新システムでは、情報処理周期の大幅な短縮および他の関連システムとオンライン接続することにより、交通状況の把握を短時間で行うことができ、迅速な対応が可能となるとともに、より早く的確な情報提供が可能となった。さらに道路情報ラジオでは、渋滞通過時間や接続道路に起因する渋滞情報を提供するなどきめ細かくで利用者のニーズに合った情報提供も行っている。

また、ニューラルネットワーク（NN）モデルを用いた交通流シミュレーションシステムによるオンラインでの交通状況予想機能の導入や各種データの保存や解析が可能なデータウェアハウスの導入により業務支援機能を充実させている。

本システムは最新の技術により、高い信頼性と様々な機能の高度化を実現しており、阪神高速道路の安全、円滑、快適な交通の確保に大きく貢献するものである。